



2019 年 3 月 15 日

ボルグワーナー

ボルグワーナーのインテリジェントカムトルク駆動(iCTA)、 燃費効率改善と排出ガス低減を実現

- *ボルグワーナーの独自技術により、最適な車両性能を維持しながら燃費効率改善と排出ガス低減を実現*
- *iCTAはカムトルク駆動(CTA)とトーショナルアシスト(TA)の利点を融合*
- *すべてのエンジン構造と全エンジン回転領域で採用可能なテクノロジー*

ボルグワーナー(本社:アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者:フレデリック・リサルド/Frederic Lissalde)は、当社の次世代カムトルク駆動装置であり、革新的なテクノロジーで優れた燃費効率と排気ガス削減を実現する、インテリジェントカムトルク駆動(iCTA)を発表しました。将来の可変バルブタイミング機構において業界をリードする iCTA は、カムトルク駆動(CTA)とトーショナルアシスト(TA)技術の最も優れている点を融合しています。

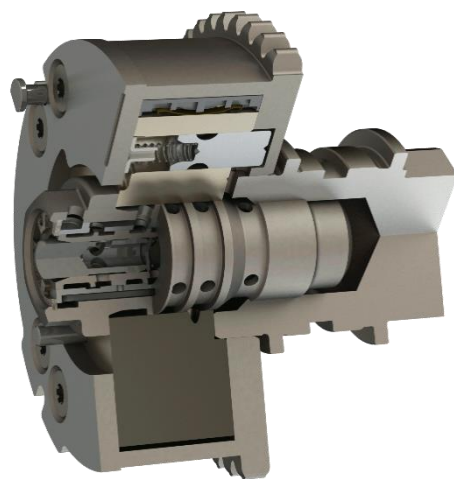
将来の排気ガス規制を満たすには、排気ガスの通気をより効率的かつ調整可能にすることが重要であり、iCTA がその鍵を握っています。iCTA は、カムトルク駆動(CTA)とトーショナルアシスト(TA)を融合することで、エンジン作動範囲全体にわたるカム位相調整を瞬時に行い、最適な車両性能を維持しながら排出ガスを削減し、燃費を改善します。ボルグワーナーの iCTA 機構は、バルブの開閉が最適になるよう調整し、条件に応じてエアフローを最大化、最小化することができます。あらゆる種類のエンジンにおいて iCTA でその性能を実現できますが、その中でも、カムトルクエネルギーが変動する直列 4 気筒エンジンに導入すると効果的です。iCTA は、変換部内のオイルを循環させることでオイル消費量と機械損失を低減させ、燃費を向上させ、排出ガスを低減し、車両性能を改善します。

なお、カムシャフトが回転することによって変動するカムトルクが発生します。iCTA は、このエネルギーを利用してエンジオイルポンプからのエネルギーを増強します。この技術には、正面取付型ソレノイドと、変換部をカムシャフトに固定するコントロールバルブ内蔵型ボルトを使用します。iCTA は、既存のセンターボルト構造内にすべての必要な機能を統合し、既存のカムトルク駆動(CTA)またはトーショナルアシスト(TA)との互換性を確保しています。

iCTA は、あらゆるエンジン回転数において安定した性能を確保し、形状もコンパクトで、低温始動から高速走行まであらゆる走行状況に対して最適なエアフローを提供する費用効果の高いソリューションです。

このテクノロジーは、2019 年および 2020 年に中国と北米における大手自動車メーカー2 社のさまざまな車両に初搭載される予定です。

ボルグワーナー・モールスシステムズの社長兼事業本部長であるジョエル・ウィガート(Joel Wiegert)は、「世界における排気ガス規制はますます厳しくなっています。自動車の性能を損なうことなく排出ガスを低減し、燃費を改善することができる iCTA は環境対応製品です。iCTA はあらゆるエンジン構造に搭載することができ、特に直列 4 気筒エンジンにとっては最良のソリューションです。iCTA によって、当社の業界をリードする可変バルブタイミング機構製品がより一層強化されました。」と述べています。



燃費を改善し、排出ガスを低減するボルグワーナーのインテリジェントカムトルク駆動(iCTA)

ボルグワーナーについて

ボルグワーナー(NYSE: BWA)は、内燃機関、ハイブリッド、電気自動車向けのクリーンで高効率な技術ソリューションを提供するグローバルなリーディングカンパニーです。世界 19 カ国 68 カ所に生産・開発拠点をもち、全世界でおよそ 30,000 人の従業員を擁しています。詳細については、borgwarner.comをご覧ください。

本プレスリリースに記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待、推測、予測に基づく、1995 年米国民事訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「もたらす」、「推測する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「狙い」、「取り組み」、「意図する」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予測困難かつ一般に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄が実際の結果と著しく異なる場合があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右される)への当社の依存性、大手 OEM 顧客への当社の依存性、商品の入手可能性および価格、供給停止、金利の変動および外貨の為替レート、与信枠、重要な管理への当社の依存性、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性、様々な損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における関税など将来の法規制の変更、直近の Form 10-K/A 年次報告書に記載したリスク要因など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスクが挙げられます。当社は、将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 副島、中井、佐藤

TEL:03-3571-5326 FAX:03-3574-0316

EMAIL : borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp